

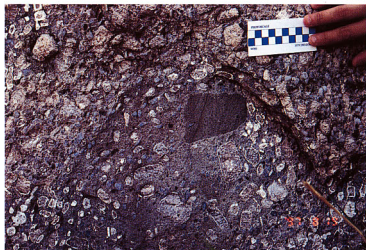
ブラジル、ロンドニアのラパキビ花崗岩

ブラジルの先カンブリア時代の最後を飾る花崗岩活動はラパキビ花崗岩である。この特異な組織を持つ花崗岩が最近世界の注目を集めている(詳しくは本文21-34頁参照)。<地質調査所 顧問 石原 舜三>



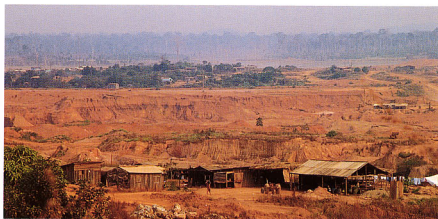
1. Wiborgiteとブラジルの少年：卵形のカリ長石斑晶に斜長石外殻を伴うラパキビ花崗岩。セラ・ダ・プロビデンシャ パソリス。

2. 灰色花崗岩(左側)と赤色花崗岩(右側)が共存する採石場、ノバ・ミナ。赤色は赤鉄鉱の微粉によるものと考えられている。サン・カルロス岩体。



3. 斑状組織(中央部)とseriate(その周囲)。中央部ではカリ長石・雨滴状石英(灰色)が斑晶状(暗色礫は玄武岩質捕獲岩)。周辺部がseriate(斑状岩の斑晶が石基の同一鉱物まで連続的に変化するもの)。

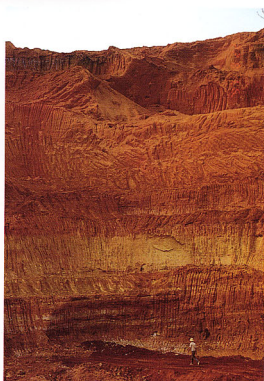
セラ・ダ・プロビデンシャ パソリス。



4. ボム・フツロ鉛床の全景。



5. ボム・フツロ錫鉛床、熱帯湿潤風化により生じたサブロライト。



6. ボム・フツロ錫鉛床、河成錫鉛床の断面。

7. ボム・フツロ錫鉛床、初生鉛床の風化部分。

